



優秀賞



「野祭～YASAI～」での餅まき

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

農猿

【南幌町】

農業体験型イベントで地域と農業の魅力を発信

はじめは？

南幌町で生産された野菜の多くは道外に出荷され、札幌圏での南幌町農産物の認知度の低さに疑問を抱いた町内の若手農業者8名が、地域おこしや地産地消を目的として平成28年に結成しました。

農業体験型イベント「野祭～YASAI～」を中心に6次産業化による南幌町農産物のブランド力向上や食育のため、常に新しい取り組みを模索しています。

おもな活動

農業体験型イベント「野祭～YASAI～」は地域おこしと「農業を身近に感じられるイベント」を目的に平成28年度から毎年9月の第1週土曜日に開催しています。

札幌圏を中心に約2,500人の来場者があり、野菜の還元販売やトラクター展示と試乗体験等を実施しています。

6次産業化への取組は南幌町農産物のPRを目的にメンバーが栽培した「ゆめぴりか」を米粉にしたドーナツやホットケーキミックス等を製作しています。

保育園を対象に「軽トラ畑」で野菜の収穫体験や、地元高校生の学校祭では、野菜の種付けから収穫までの作業と収穫物の販売体験を行っています。



米粉のドーナツ

ここが自慢

【子供たちに農業のカッコよさを伝える】

農猿は南幌町の若者が職業の垣根を越えて、地域活性化を目指す団体です。活動を通じて自分たちのセンスやスキルを磨いており、「楽しいから美味しいを創る」をモットーに、自分たちが楽しい思うことを多くの方に共有してもらうことで南幌町の魅力を次世代に伝え継承していく、永続的な活動を目指しています。これからも自分たちが楽しみながら、南幌町の地域活性化に取り組みます。



「軽トラ畑」で収穫体験

連絡先

代表者名：米田 昌樹さん／設立：2016年／会員：17名

住所：空知郡南幌町南13線西12番地

電話番号：080-3232-9080

F A X：011-378-5578

E-mail：noen.nanporo@gmail.com

U R L：https://noen-nanporo.farm/



優秀賞

栗山町
由仁町



そらち南さつまいもクラブのメンバー

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

そらち南さつまいもクラブ

【由仁町・栗山町】

ゆっくり

若手農業者たちが「由栗いも」で全国的産地を目指す

はじめは？

平成28年に由仁町と栗山町の4Hクラブの若手農業者たちが集まり、両町で農作物を使ったイベントで地域を盛り上げることができないかを考えた結果、さつまいもを作ったら「子供たちが喜んで食べてくれた」という話にヒントを得て、さつまいもを特産物とした食育活動やイベントによる両町のPRを目的に平成29年に「そらち南さつまいもクラブ」と命名して活動を開始しました。

おもな活動

クラブは栽培班と販促班の2班で活動をしています。栽培班はさつまいもの生産に関わる試験や収量調査を行い、両町に合うさつまいもの栽培マニュアルを作成し、販促班はさつまいもの販売・加工、食育活動やイベント企画などの両町の名前を受け継いだ「由栗いも」のブランディングを高める活動を行っています。夏はクラブ員の圃場視察や他地域の農家視察を行い、秋には収穫したさつまいもを使用したフェスティバルを開催し、焼き芋や加工品の販売をします。食育として両町の保育園児や小学生を対象に植付や収穫体験を実施しています。

「由栗いも」と両町の全国的な認知度向上を目指して、生産量と販路拡大による地域活性化に取り組んでいます。



地元小学生の収穫体験



試食で品種は「べにあずま」に

ここが自慢

【ゆっくり熟成させた「由栗いも」】

クラブの行動力を活かし、各方面にアピールを行い、由仁町役場、由仁町商工会協力のもとクラブが生産したさつまいもを使用した料理を8店舗が企画販売をするイベント「由栗いもフェスティバル」を令和3年に開催しました。この活動がメディアで紹介されたことで、様々な地域の人々に私たちの育てる「由栗いも」や由仁、栗山両町のことをPRする機会になりました。オリジナルの出荷用「段ボール箱」も作成して、さつまいもによる地域のPRを進めています。



オリジナルの段ボール



熱々の焼き芋販売

連絡先

代表者名：川端 祐平さん／設立：2017年／会員：17名

住所：夕張郡由仁町東三川3215-4

電話番号：080-1881-4073

F A X :

E-mail : ks.food.base@gmail.com

U R L :



北広島市



見本田での稲作体験

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

北広島市水稲赤毛種保存会

【北広島市】

寒地稲作発祥の歴史と道産米のルーツ「赤毛米」を継承する

はじめは？

北広島市は「寒地稲作の父」と呼ばれる中山久蔵が明治時代に道南以北では栽培が困難であった寒地稲作を成功させた「寒地稲作発祥の地」であり、道産米のルーツとされる赤毛種が継承されてきました。

昭和59年に北広島市が開基100年を迎えた節目に歴史的に重要な赤毛種を絶やしたくないという声から見本田を復活させ、保存・栽培に取り組むことを目的に、平成4年に北広島市水稲赤毛種保存会が発足しました。

おもな活動

赤毛種の保存と栽培に取り組んでいます。明治時代に中山久蔵が居住していた旧島松駅通所の横に復活させた見本田では、赤毛種を使用した体験学習を行っており、市内の小学生が田植えや、稲刈り体験をしています。刈り取り後は、学校に稲を持ち帰り、足踏み脱穀機などの昔ながらの作業を体験して、最後は自分たちでおにぎりを作って食べることを通じて寒地稲作発祥の歴史を学んでいます。



見本田全景



はさ掛け

ここが自慢

【食育と地域振興に貢献したい】

市内の小学生は、赤毛米の栽培体験を通じて北広島の歴史を学習し、郷土愛が芽生えるきっかけとなっています。北広島商工会では、赤毛米を原料にした日本酒、酒粕や米粉を使用した商品を次々に企画しており、赤毛米をモチーフにしたご当地キャラクター「きたひろ まいピー」によるPR活動も展開されています。見本田がある旧島松駅通所は現北海道大学の初代教頭であったクラーク博士が帰国の際に金言を残した地でもあります。



寒地稲作発祥の碑



旧島松駅通所ライトアップ

連絡先

代表者名：三戸 修さん／設立：1992年／会員：2名

住所：北広島市中央4丁目2番地1
(北広島市経済部農政課)

電話番号：011-372-3311

F A X：011-372-0888

E-mail：nousei@city.kitahiroshima.lg.jp

URL：https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/hotnews/detail/00128533.html



奨励賞



当別町



島崎藤村の「若菜集」を朗読中

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体 北海道当別高等学校ボランティア局 【当別町】

「青春」と「フットパス」で地域振興のお手伝い

はじめは？

平成26年に園芸デザイン科造園緑化班が農村景観を評価する学習の一環として、フットパスを開始しました。平成28年には「当別高校生も地域資源であり、若さみなぎる人材」との思いから、その名称を『当別青春フットパス』とし、企画運営を園芸デザイン科グリーンデザインコースが、家政科食物調理コースが地域食材を使った昼食を提供する現在の形式になりました。平成29年からは活動を全校的な取組みへ発展させるため、ボランティア局が企画運営を担当しています。美しい自然、美味しい農産物、開拓の歴史、豊かな当別町の景観を活かし、地域振興のお手伝いをするを目的としています。

おもな活動

基本は部活動のため、放課後と土曜日に毎回コースとテーマを選定し、局員作成のHPや『フットパス通信』で一般参加者を募集します。開催当日は局員の案内により、町内の約5～7kmをゴミを拾いながら歩き、所々で当別町の紹介等を行います。昼食は家政科食物調理コースの生徒が地域の特産物を使った昼食をコンセプトを交えて提供します。昼食後には吹奏楽部や茶道部などの文化系部活動の活動披露や、ミニ講座を地域の研究家を講師に招いて実施しています。



校舎での昼食会

ここが自慢

【おもてなしとアドバイスで世代を超えた交流】

高校生が企画運営しているフットパスは全国的にも例がありません。フットパスに参加される方の多くは、普段から歩き慣れていることもあり、生徒よりも健脚で「大丈夫？食べなさい、飲みなさい」と生徒を気遣かう場面をよく見かけます。終了後のアンケートでは、「生徒とおしゃべりができて今日は楽しかった」と回答される方がほとんどで、当別の美しい景観と美味しい食べ物に加えて、生徒との交流が『当別青春フットパス』の大きな魅力です。



フットパスの様子

連絡先

代表者名：宮本 匠さん／設立：2017年／会員：4名

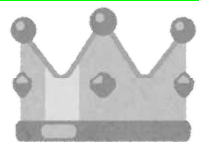
住所：石狩郡当別町春日町84番地
(北海道当別高等学校)

電話番号：0133-23-2444

F A X：0133-23-2380

E-mail：toubetsu-z1@hokkaido-c.ed.jp

URL：http://www.toubetsu.hokkaido-c.ed.jp



奨励賞



札幌市



まっ赤に実ったリンゴを収穫

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

南区農園ガイドの会

【札幌市】

農園ガイドによる新たな都市農業のかたち

はじめは？

札幌市南区には自然豊かな環境の中に多くの農園や果樹園がありますが、市民の認知度はそれほど高くありませんでした。地域資源である農園、果樹地帯の素晴らしさを市民に知って欲しい、もっと気軽に訪れてほしいとの気持ちから、2年間の準備期間中のモニターツアー等を経て令和3年4月から本格的な活動を開始しました。

おもな活動

市民がもっと気軽に訪れることができるように、農園・果樹園地帯の資源をアピールするため、地域の農業を知ってもらうための体験プログラム等を企画実行。そのための農園ガイドの育成や協力農園を整備しています。地域の情報発信はHPや印刷物、動画コンテンツ等を利用しています。イチゴ、ハスカップ、サクランボ等の農業体験以外にも山菜ツアーやおぞらコンサート、オーチャードヨガ等を地域と都市の交流促進のため開催してきました。農園ガイドの会は南区の農園と地域住民による



初夏のいちご狩りツアー

ガイドと地元の事業者が連携して交流人口を増やし、活力のある町づくりを目標としています。将来は農園のみならず、南区の歴史、自然、文化、産業を紹介することができるガイド事業を目指しています。

ここが自慢

【農を知る、農を楽しむ、南区を楽しむ】

農園に訪れた利用者は、南区への愛着を持った非農業者の農園ガイドと共に、様々な農業体験を行うことで、今までの果物狩りでは経験することができない付加価値を得ることができます。農園主やボランティア、地域住民とのふれあいを通じて農村部の魅力を再発見し、南区のファンを増やすことを目標にしています。農作業の合間の農園主さんとのティータイムなどの交流で、まるで田舎の実家に帰ってきたような暖かい時を感じてもらえる様な体験が出来るようにしたいです。より農村部にどっぷりと浸かる体験を企画したいと考えています。



食育体験教室

連絡先

代表者名：瀬戸 修一さん／設立：2021年／会員：20名

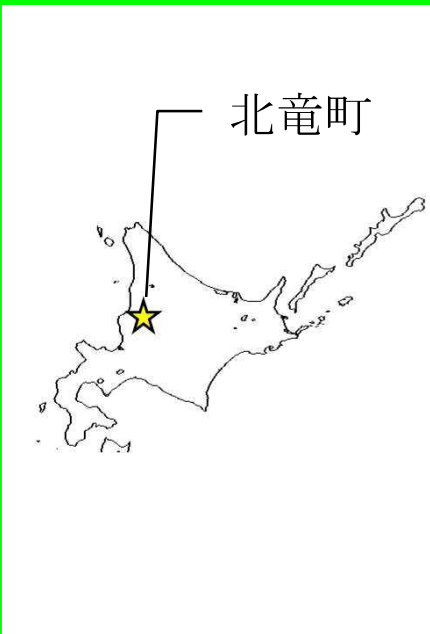
住所：札幌市南区簾舞1条4丁目7番2号

電話番号：070-4491-8054

F A X :

E-mail：yama2580tatsu@gmail.com

U R L：https://www.minamiku-farms.com/



黒千石事業協同組合

黒千石事業協同組合の生産者と職員の皆さん

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

黒千石事業協同組合

【北竜町】

幻の黒千石大豆で地域を活性化

はじめは？

北海道の在来種である黒千石大豆は栽培が難しく、軍馬の飼料や緑肥作物とされ、昭和45年以降栽培が途絶えていました。納豆業界から小粒で希少な黒大豆で納豆を作りたいとの要望があり、平成17年に北竜町を中心とした道内各地の有志が黒千石大豆の栽培を復活させ、平成19年に黒千石事業協同組合を設立しました。

おもな活動

平成18年から札幌市の「北のめぐみ愛食フェア」をはじめとする道内外の各種イベントや台湾台中市で北竜町が開催した物産展等に参加する等、消費者の顔が見える対面販売と直営のネットショップにより、黒千石大豆を紹介・販売するほか、北竜町長がバスガイドを行う札幌発のバスツアーでは黒千石大豆畑での収穫体験を実施しています。

地元レストランでは黒千石大豆のオリジナルメニューが人気を博しているほか、各業界からも黒千石大豆の栄養成分の素晴らしさに注目が集まり、黒千石大豆を発芽させた納豆、北竜町産のひまわり油を使用したドレッシング、大豆ミート等多数の商品が販売されています。黒千石事業協同組合の活動は「安心、安全、自然、健康」を基本理念に北竜町のPRに繋がっています。



黒千石大豆

ここが自慢

【生産農家との強いつながりで守る黒千石大豆】

対面販売による消費者の声を商品開発のアイデアにして、消費者に美味しい黒千石大豆を提供するため、生産者から全量一括で買い取る仕組みにより、組合員を全道に広がっています。添加物を一切使わない黒千石大豆の加工品は安全・安心な食材として北空知圏の学校給食に提供され、子どもたちの健康維持に貢献しています。タンパク質豊富なきな粉や大豆ミートは国内のみならず、輸出も視野に活動を進めています。



黒千石大豆商品

連絡先

代表者名：高田 幸男さん／設立：2007年／会員：44名

住所：雨竜郡北竜町字碧水31番地の1

電話番号：0164-34-2377

F A X：0164-34-2388

E-mail：info@kurosengoku.or.jp

U R L：https://kurosengoku.or.jp/



新そば収穫祭

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

うらうす手打ちそば友の会

【浦臼町】

手打ち技術研鑽から「ぼたんそば」の消費拡大を目指す

はじめは？

浦臼町では、「ぼたんそば」を栽培していましたが、平成10年頃には町内でのそばの作付のほとんどが早生・多収の「キタワセソバ」となりました。しかし、町内でぼたんそば特有の風味や甘みを愛する人々が、北海道古来の品種である「ぼたんそば」の維持・拡大と、打つのが難しいとされる「ぼたんそば」の二 handed 打ちそば技術の研鑽のため、平成14年から「うらうす手打ちそば友の会」として活動を開始しました。

おもな活動

ぼたんそばの生産・普及・消費拡大を目指し、浦臼町で生産される全てのそばが「ぼたんそば」になっています。毎年秋の「新そば収穫祭」の運営、浦臼観光協会主催の「うらうす夏の味覚祭り」や岩見沢市で開催される「空そば祭り」に出店するなど、「ぼたんそば」で浦臼



小学校でそば打ち体験

町のPRを行っています。また、小中学校や高齢者施設でそばの手打ち体験などを行い、広い世代に「ぼたんそば」特有の風味を広めることで地域への貢献を行っています。

ここが自慢

【幻のそば「ぼたんそば」】

栽培が難しく収量の少ない「ぼたんそば」の作付面積を増やし、浦臼産ぼたんそばをブランド化しました。「ぼたんそば」は全国的に流通量が少ないこともあり、希少価値の高いそばになっています。毎年秋に開催する「新そば収穫祭」は、2日間で5,000人を超える来場者があり、交流人口の増加やPRなど地域貢献に繋がっています。

会員全員がそば打ちの高いスキルを身につけており、一度食べたら忘れられない風味豊かな「ぼたんそば」を打ち続けます。



手打ち技術の研鑽

連絡先

代表者名：山本 要さん／設立：2002年／会員：20名

住所：樺戸郡浦臼町ウラウスナイ183番地の15
(浦臼町役場産業振興課)

電話番号：0125-68-2114

F A X：0125-68-2285

E-mail：

U R L：



浦臼町



浦臼町農産加工研究会のメンバー

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

浦臼町農産加工研究会

【浦臼町】

地域のお母さんが特産品を作り続けて30年

はじめは？

浦臼町の農家と町のお母さんが、豆腐、麴、味噌等を自家用に製造していましたが、浦臼に何か特産品を作れないかと思ったのがきっかけです。トマトジュースは原材料のトマトから自分たちで栽培しています。ブドウジャムは広大な面積で栽培されているワイン用のブドウを使用しています。商品のラベル製作も手掛け、製造から販売までを通して地域のお母さんが地域活性化のため活動しています。

おもな活動

トマトジュースやワイン用ブドウジャムの製造・販売を通じて浦臼町のPR活動や地域貢献（医療施設や高齢者施設への無償提供など）を行っています。

常連のお客様はもちろん、町内外のイベントに参加して多くの方にトマトジュースやジャムを提供しています。HACCPに沿った衛生管理を導入し、更なる安全を心がけることで皆様の健康をサポートしています。



一つ一つ手作業でカット



トマトジュースに

ここが自慢

【トマトが苦手でもこれなら飲めるでしょ？】

全てが手作り、原材料のほぼ全てが浦臼産です。「のんでとまと」は綺麗な空気とおいしい水、愛情たっぷりに育てた朝もぎの完熟「桃太郎トマト」を24時間以内にまるごとすり潰しています。味わいは完熟トマトの甘みのなかにさわやかな酸味を残し、濃厚でドロドロしていますがとても飲みやすく仕上がっています。「ワインブドウジャム」は浦臼町産ブドウを原料とした世界レベルのワイン「鶴沼シリーズ」と同じブドウで作ったジャムです。最高に美味しいトマトジュースとジャムを浦臼のお母さんパワーで30年間作り続けてきたことが大きな自慢です。



濃厚なトマトジュース

連絡先

代表者名：笹木恵美子さん／設立：1990年／会員：17名

住所：樺戸郡浦臼町字ウラスナイ183番地の15
(浦臼町役場産業振興課)

電話番号：0125-68-2114

F A X：0125-68-2285

E-mail：

U R L：

深川市



新しい特産品開発を産学官連携で検討

「わが村は美しくー北海道」運動第10回コンクール応募団体

ふかがわ地域資源活用会議

【深川市】

産学官の連携で地場農産物を商品化、PR

はじめは？

平成19年に前身の「ふかがわ元気会議」が設立され、部会の1つ「地域経済活性化部会」が独立して、平成22年に「ふかがわ地域資源活用会議」が設立されました。

市内事業者、農業者、各種団体など業種を超えて広く市民の参画を得て、地域資源を活用した事業の企画及び運営を行い、地域経済の活性化と地域活力の向上に寄与することを目的に活動を行っています。

おもな活動

①黒米の普及・活用事業として、黒米品種「きたのむらさき」誕生の地、深川から、事業者と生産者が連携して数々の黒米商品を展開して黒米の認知度向上に取り組ん

でいます。②ふかがわシードル・ふかがわポーク販売拡大事業として、ラインアップが充実し好評を得ている「ふかがわシードル」、「りんごジュース」、飼料の一部に深川産米シードルの絞りかすを使用した「ふかがわポーク」の更なる販路拡大を目指しています。

③地域資源を活用した商品開発と販路拡大を3本の柱と位置付け、地域に秘められた農産資源を活かした特産品の開発やPRを実施しています。



りんごジュース

ここが自慢

【くろが舞うのよ。北の黒米】

会議のメンバーは農業者、デザイナー、学校職員（教職員含む）、農業協同組合等、事務局を深川市が担い、深川市内の様々な業種で構成されています。各業界と密に産学官連携を図れることから、特産品企画



北の黒米

・開発だけでなく、販路確保までも素早く行動に移せることが大きなメリットであり自慢です。

特産品開発やPRには様々な立場の人が関わり、全員参加で地場農産物を利用することで地域経済の活性化に繋がっています。

連絡先

代表者名：溝口 めぐみさん／設立：2010年／会員：7名

住所：深川市2条17番17号（深川市地域振興課内）

電話番号：0164-26-2276

F A X：0164-22-8134

E-mail：chiikis@city.fukagawa.lg.jp

U R L：